

まいづる花図鑑 ありがとう、掲載第 100 回



▲瓜生さん。原稿を受け取りに行くと、いつも優しい笑顔で迎えてくれる。

「まいづる花図鑑」は今月号で掲載100回の節目を迎えました。平成18年5月1日号の第1回「ハマナス」の掲載から始まり8年間。毎月掲載時期に、舞鶴市内で見ることが出来る花を写真と解説で紹介してきました。

原稿や写真の協力をいただいているのは、舞鶴市文化保護委員植物分野の瓜生勝朗さん（久田美）。青葉山レンジャー隊で環境保護活動などでも活躍されています。

掲載100回を迎え、瓜生さんは、「最初はハマナスの解説を依頼されましたが、そのときは1回で済むのかなと思っていました。連載と聞き驚きましたが、まさか100回まで来るとは思いませんでした」と振り返ります。

瓜生さんは、昔から山が大好きな、自然をこよなく愛する植物オタク。20歳のころから花を見ながら名前を調べ、花について覚えていったそうです。今でも各地の山を登るのじょうず。

「ふじに咲くつらねのような花が、分かりやすく伝わるように心がけています。冬場は花が少なく悩むときがありますが、目指すは200回かな……」と瓜生さん。

舞鶴にはまだまだ花や植物がたくさん。これからも、広報まいづるの輪の花を添えてお届けします。



◀まいづる花図鑑の第1回が掲載されている平成18年5月1日号。

まいづる花図鑑 100

【サネカズラ (ビナンカズラ)】

- ◆マツバサ科
- ◆見ごろ (花期) 7~8月、(果期) 11~12月頃



関東以西の山地に生える常緑つる性木本。観賞用として植えられることもある。

古いつるは径2㍉程になり、外皮はコルク質になる。葉は互生し、長さ5~10㍉の楕円形で、質は厚く、柔らかい。

夏、葉腋から花柄を出し、径2㍉程の淡黄白色の花を下垂する。果実は、径2~3㍉の集合果でよく目立つ。

名前の由来は、サネは実、カズラはつるで「実の目立つつる」の意味。別名の「ビナンカズラ」は「美男葛」で、昔、武士が茎から抽出した粘液で頭髪を整えたことから。

【協力】

瓜生勝朗 市文化財保護委員 (植物分野)

発行・舞鶴市 (〒625-8555 京都府舞鶴市宇北坂1044、☎62・2300)
 (ホームページ) <http://www.city.maizuru.kyoto.jp/>
 編集・広報広聴課 (☎66・1041、FAX 62・7951) 印刷・有限会社みどり印刷

まいづるメール配信サービス
 防災情報、観光・イベント情報など
 ▶登録は、こちらのコードから

